

パネルディスカッション2

多様な言語文化の背景を持つ子どもの成長を育む環境づくりの新展開 ～連携の「いま」と「これから」～

1. 本パネルの趣旨

これまで多様な言語文化の背景を持つ子ども達の成長や社会参画を多くの人々のネットワークが支えてきました。多様な言語文化の背景を持つ子どもの課題は複層的で、単独の機関や支援者だけではその成長を支えることは難しいことは、これまで何度も議論されてきた通りです。

しかし、社会環境は刻々と変化を続けています。この数年、私たちに重くのしかかったコロナ禍は人と人の関係性の在り方や ICT の普及を含め、社会や日常生活に大きな影響を与えましたが、それ以外にも急速に移り変わる社会の動きと共に様々な変化が多様な言語文化の背景を持つ子どもや私たちの周囲に起こっています。これまでの取り組みの成果としての環境の変化／進化もあります。そこで得られた経験や知恵の蓄積から見えてきた糸口、さらには新たに浮かび上がってきた課題もあるかもしれません。そういったものをあらためて持ち寄って突き合わせてみることで、子ども達の成長を育むための多様な主体間の連携についての議論をアップデートしていく必要性を感じています。

このような問題意識の下、本パネルでは、行政、大学、NPO のそれぞれの立場にあって、さまざまな主体と連携しながら多様な言語文化の背景を持つ子ども達の指導・支援に取り組んでおられる3人の方にご登壇いただきます。そして、パネリストのみなさんの取り組みの様子を伺いながら、また、参加されたみなさん御自身の取り組みや課題にも照らしながら、多様な言語文化の背景を持つ子どもの成長を育む環境づくりのために連携が果たす新たな可能性について、皆さまと一緒に考えたいと思います。

コーディネータ：浜田麻里（京都教育大学）

2. パネリストの紹介

○大菅佐妃子さん（京都市教育委員会）

「京都市教育委員会主催事業の可能性を広げる様々な連携
—三つの事業から生まれた新たなつながりの事例から—」

○中川祐治さん（大正大学）

「大学、学生、行政の連携から—大正大学での取り組み」（仮題）

○山田拓路さん（NPO 法人メタノイア）

「多機関連携による地域子ども日本語教室の成長
—「あだち子どもの日本語教室」の例を中心に—」